



にかさい

江戸川区立第二葛西小学校

令和7年5月1日発行

子どもたちの挨拶と「ことば」の力

校長 吉田 佳代

令和7年度が始まって、1ヶ月が過ぎようとしています。新1年生も少しずつ学校生活に慣れ始め、お陰様で落ち着いたスタートをきることができています。

さて、4月18日の保護者会では、ご多用の中、多くの保護者の方々にご出席いただき、誠にありがとうございました。今後何かご心配な点がございましたら、ご遠慮なく学校へご相談ください。

心のこもった挨拶とは

「ぼくの挨拶は、どうですか？何点ですか？」

先日の全校朝会で、挨拶について話をしたせいか、翌朝そんなことを聞いてきた児童がいました。目を見て大きな声で「おはようございます。」と挨拶をしてくれたので、「もちろん、100点満点だよ。」と答えると、にっこり笑ってその場を去る児童の姿がありました。

「挨拶」の「挨」には「心を開く」という意味、「拶」には「その心に近付く」という意味があります。つまり、「挨拶」とは、まず自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近付いていくということなのです。自分の心を開くのですから、自分からしなければいけません、という話を全校朝会で話しました。

「挨拶」は、人間関係をスタートさせる最初の一步です。大人も同じで、挨拶ができない人は、人間関係を構築することができません。また、自分では「挨拶」をしたつもりでも、目を合わせなかったり、小さな声であったりすると、せっかくの挨拶もただのつぶやきになりかねません。

本校の児童は、とても気持ちのよい挨拶をしてくれます。校門に一緒に立っている挨拶隊当番も、素晴らしい挨拶をします。今後も二葛西小に、明るく心のこもった挨拶が響き渡るよう、声を掛け続けてまいります。

「ことばの力」の育成に向けて

今年度5月より「ことばの力」を高める手立ての一つとして、「暗唱」に取り組めます。これは、毎月暗唱の課題が出され、発表するという取組です。近年「声に出して唱える」ことは注目されており、特に小学生の頃から取り組むことで、柔らかい頭と心の中に、「大切なことば」が刻まれていきます。

時には、古典などの一節も課題として出す予定です。「意味が分からないのに、大丈夫だろうか。」というご心配もあるかと思いますが、古典、和歌、詩などの名文を暗唱することで、脳の中に豊かな語感と語彙が形成されていきます。また、子ども時代に覚えたものは、大人になっても残っているものです。同時に、子どもたちの教養も高めていくことにつながっていきます。ぜひご家庭でも一緒に声を出して、楽しんで取り組んでみてください。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

初めての暗唱は「いろはうた」です。
五月の連休明けに、用紙を配布
する予定です。
ぜひ親子で挑戦してみてくださいね。

いろはうた
いろはにほへと ちりぬるを
わかよたれそ つねならむ(ん)
うぬ(い)のおくやま けふ(きふ)の
あきめめし 憂ひ(うれ)も かな(かな)し
いんて



5月17日(土)は、本校の運動会があります。運動会に向けて練習を重ねておりますが、熱中症が心配される時期になってきました。江戸川区立学校では、「環境省の『熱中症警戒アラート』が『東京都』に対して発表された場合、『屋外』で、『運動を伴う』活動は原則取りやめる」「『暑さ指数(WBGT)』が『観測地点江戸川臨海で31以上(危険水準)』の場合、『屋外』で『運動を伴う』活動は原則取り止める」ことになっております。今後も気を付けて、児童の様子を見ていきたいと考えております。ご家庭でも、暑さに負けないよう毎朝しっかり朝食をとらせ、水筒と汗拭きタオルのご準備を、どうぞよろしくお願いいたします。